



令和6年 8月18日(日)

12:00 開演 (11:00 開場)

二十五世観世左近記念 観世能楽堂

前売券：販売中

料金：全席指定(税込)

S席 10,000円 A席 9,000円 B席 8,000円

C席 7,500円 学生席 2,500円 (25歳以下、要学生証提示)

- ・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。お気軽にご参加ください。
・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

主催：公益財団法人十四世六平太記念財団

協力：一般社団法人喜多流職分会

助成：文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術等総合支援事業 (公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

喜多流 自主公演

令和六年 八月

紅玉歌 紅葉狩 葛占 内田成信 佐藤陽 塩津哲生

令和6年度 喜多流自主公演について

喜多能楽堂改修工事の為、令和6年度自主公演(令和6年4月~令和7年3月)の会場は 観世能楽堂 となります。

- ◆ 指定席券販売中
◆ 令和6年度は全7回公演です。
◆ 令和6年度 喜多流自主公演年間優待券(税込) 発売中
7枚綴 56,000円 / 5枚綴 40,000円
◆ 会場 観世能楽堂

観世能楽堂ホームページ ▶▶



チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ http://kita-noh.com/ (24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL. 03-3491-8813 (午前10:00~午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

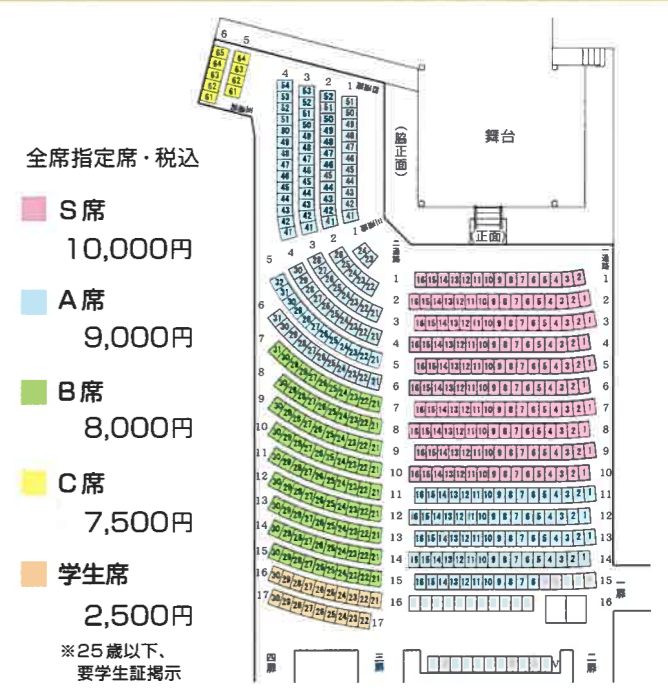
チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振り込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

- ※ お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。
※ ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

- ・ロビーが混雑することがありますので、できるだけ開場時間に合わせたご来場をお願いいたします。
・開演中の途中入場はお断りいたします。
・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
・能楽堂内に食堂はございません。GINZA SIXまたは近隣の飲食店をご利用ください。
・観世能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。
・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

自主公演観客席御案内



会場案内

二十五世観世左近記念 観世能楽堂

〒104-0061 東京都中央区銀座6-10-1 GINZA SIX 地下3階
会場に関するお問い合わせ TEL. 03-6274-6579 (観世能楽堂)
観世能楽堂ホームページ https://kanze.net/

公演に関するお問い合わせ TEL. 03-3491-8813 (喜多能楽堂事務所)
喜多能楽堂ホームページ http://kita-noh.com/



- ・銀座駅 東京メトロ銀座線・日比谷線・丸の内線 A2出口、A3出口より徒歩2分 ※ 銀座駅とGINZA SIX地下2階をつなぐ連絡通路がございます
・東銀座駅 東京メトロ日比谷線・都営浅草線 A1出口より徒歩3分
・有楽町駅 JR山手線・京浜東北線・東京メトロ有楽町線 銀座出口より徒歩10分
・車でお越しのお客様 GINZA SIX内に併設の駐車場がございます。詳しくはGINZA SIXホームページにてご確認ください。
・能楽堂へは、三原通り側・トラベルローソン横のエスカレーター・エレベーターをご利用いただくと便利です。中央通り側入口からは、能楽堂までの直行エレベーター・エスカレーターはございません。
・土曜日・日曜日・祝日の中央通りは、歩行者天国となり、平日と異なりますのでお車でご来場の際はご注意ください。

事前解説 狩野祐一

能

子方・幸菊丸 塩津希介
シテ・渡会某 塩津哲生

歌 占 宝生欣哉

大鼓 亀井広忠 笛 松田弘之
小鼓 飯田清一

後見 香川靖嗣
塩津圭介

地謡 高林昌司 佐々木多門
谷友矩 長島茂
大島輝久 出雲康雅
狩野祐一 狩野了一

狂言

清水 善竹十郎 アド・主人 野島伸仁

休憩(二十分)

能

後シテ・玉葛の霊 佐藤陽
前シテ・里女

玉 葛 御厨誠吾

大鼓 原岡一之 笛 成田寛人
小鼓 田邊恭資

アイ・初瀬寺門前の者 善竹大二郎

後見 内田安信
粟谷浩之

地謡 金子龍晟 高林呻二
塩津圭介 長島茂
佐々木多門 粟谷明生
佐藤寛泰 金子敬一郎

休憩(十分)

能

シテ連・里女 狩野祐一
シテ連・里女 谷友矩
前シテ・里女 内田成信

紅葉狩 則久英志

ワキ・平維茂 大日方寛
ワキ連・維茂従者 宝生朝哉
ワキ連・維茂従者 渡部葵
ワキ連・維茂従者

大鼓 大倉栄太郎 太鼓 梶谷英樹
小鼓 森澤勇司 笛 藤田貴寛

アイ・女 大藏教義
アイ・末社の神 善竹大二郎

後見 友枝昭世
狩野了一

地謡 高林昌司 粟谷浩之
友枝真也 中村邦生
大島輝久 大村定
佐藤寛泰 友枝雄人

附祝言

終了予定時刻 十六時五十分頃

歌占(うたうら)

加賀国白山の麓の里人が幼子(幸菊丸)を伴い、近頃よく当たると評判の、伊勢国二見浦から来た神子のもとに歌占を引きに行く。まだ年若いのに白髪である神子は、以前神罰により三日間死後の地獄を経験し、その苦しみで白髪になったことを語る。父の病状を訊ねる里人に続いて歌占を引いた幸菊丸は生き別れた父を探しており、その父とは実はこの神子、渡会某のことであった。

親子の再会を喜び、里人は地獄の有り様を見せるよう所望する。地獄の有り様をお見せするが、これを舞い謡うと正気を失うのだと言いつつも、渡会某は地獄の有り様を謡い舞う。そうこうするうちにやはり神霊が取り憑いたようになったので、必死に祈り神霊を天にお返しすると、やがて正気に戻り、親子連れ立って二見浦へ帰るのだった。

「歌占」とは相手に和歌の書かれた短冊を一枚選ばせ、その内容で吉兆を占うもの。

清水(しみず)

主は、太郎冠者に、明日催すことになった茶の湯の為に、野中の清水に水を汲んでくるように命令し、秘蔵の桶を持たせる。毎回のこととなると面倒なので、清水に鬼が出たので、水を汲むことができなかつたことにし、太郎冠者は秘蔵の桶を隠す。すると、主は、秘蔵の桶が心配なので清水に見に行くといつて清水に向かう。

清水に鬼が出るわけではないので、太郎冠者は鬼の面をかぶって鬼に成ります。主は鬼が出たと思いついて入っている様子だったので、太郎冠者は「太郎冠者に夏は寝る時に蚊帳をつつやれ」とか「使いにやたら酒を呑ませてやれ」と鬼の声で主に命じる。主が逃げ帰ってから、様子を尋ねると、太郎冠者は鬼の真似をして「いで食らおう、あー」と言う。すると、鬼の声と同じだと不審に思った主は、もう一度清水に向かう。慌てた太郎冠者は、また鬼の面をかぶって成りしますが、今度は見破られて面を取られて逃げていくのであった。

(約二十五分)

玉葛(たまかざら)

諸国を旅する僧が初瀬詣をしようと、南都から旅し初瀬川の辺りを通りかかる。そこに初瀬川を小舟で上ってきた里女と行き会い声をかける。舟を下りた女と共に長谷観音を参詣した後、女は僧を二本の杉へと案内する。この杉こそ源氏物語の中で玉葛内侍と、その亡母夕顔の侍女であり玉葛を探し初瀬詣に來ていた右近が出会った際に歌に詠まれた杉であることを語る。その時の玉葛は筑紫から辛い船旅を経て都に逃げ上り、初瀬詣に至ったのだということを語り、僧に回向を頼むと、自分がその玉葛であると仄めかし消えてゆく。(中人)

回向する僧の夢枕に玉葛の霊が現れ、回向により妄執を晴らし、僧の夢が覚めるとともに消えてゆくのだった。

(約八十五分)

紅葉狩(もみじがり)

信濃国戸隠山に鹿狩に出掛けた平維茂らは、侍女を連れて紅葉狩をしている美しい女の一行に出会う。誘われるままに酒宴に加わった維茂はいつしか酔い、女が舞を舞ううちに寝入ってしまう。それを見た女たちは維茂を起さぬようにしつつ姿を消す。(中人)

(約八十分)

令和七年 一月 自主公演番組予告

令和七年 一月二十六日(日) 正午始

●会場 観世能楽堂
●前売券販売中

氷室 大島輝久
東北 友枝雄人